

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第7回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) バス路線（正善寺線）の再編について（公開）

(2) 地元の方との意見交換（公開）

(3) 地域協議会 会長会議について（公開）

3 開催日時

令和元年11月27日（水） 午後6時30分から午後8時24分まで

4 開催場所

飯公民館 2階 大会議室

5 傍聴人の数

11人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：高宮宏一(会長)、川住健作(副会長)、村田敏昭(副会長)、
伊崎博幸、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、
永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正

・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・ 石野委員、牛木委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

・ 会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：竹内委員、永野委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料により説明

【高宮会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし

一次第3議題（1）バス路線（正善寺線）の再編について—

【高宮会長】

次第3議題（1）「バス路線（正善寺線）の再編について」に入る。

前回の会議では、市の担当課から、現在の市の方針などについて説明を聞いた。

それをふまえ、本日は、まずバス路線の再編に対する地元の方々の意見を伺っていききたい。

本日は、正善寺線バス利用促進協議会をはじめ、地元の方々にお越しいただいている。地域の現状や、市が示している案に対する疑問、再編によって心配されることなどについて発言を求める。

【傍聴人①（正善寺線バス利用促進協議会会長）】

正善寺線は赤字の路線であり、苦しい経営状態である。直近だと、年間約80万円の利益に対し、市から400万円以上の支援を受けていた。そのため、以前からバス路線の廃止の可能性を市から告げられていた。どの町内でも子どもがだんだんいなくなっていて、バスに乗る人がいないのは分かっていた。

それでは正善寺線は成り立たないということで、促進協議会でどうしたらよいか話し合いをした。その中で、市街地の人から乗ってきってもらうためにはどうすればよいかという話が出た。正善寺には春日山城に通じるいろいろな古道があるので、それを世に出したらどうだろうという話から、古道を整備して、そこに人を呼んで歩いてもらったらどうだろうか。また、正善寺ダムは、夏場はアジサイが咲くといい景観になるので、そこにも来てもらおうという話になった。そこで、春日山城の

三ノ丸から、上杉謙信公が戦に行く時に必勝祈願したと伝えられる中正善寺の権現堂までを整備した。そして、第1回目の散策会を平成27年11月の土曜日にやった。高田から臨時バスを出し、35人の参加者があった。皆さんから「よいところだね。」という感想をもらい、翌年から年3回の散策会を行っている。もちろん散策会の前には古道整備をやっており、権現堂から正善寺工房までの古道を歩けるように整備もした。他にも、イノシシ汁を皆さんに提供するという会も作った。正善寺線のバスの活性化に向けて今後もやっていきたいと思っていたが、今年、再編という話が来た。これも時代の流れということで致し方ないことだが、もう少し皆さんの力を借りながら、何かできることがあるのではないかとということで、今もいろいろと検討している。

今回のバス路線の再編については、交通政策課で地域の皆さんにアンケートを取っていて、地域の人たちが心配しているような様子は見受けられなかったという話を聞いた。そんなに困っていないというのは意外だった。私はもうすぐ運転免許証を返納する年代になるが、運転免許証を返納したら誰も乗せてくれる人がいないため、どうすればよいか不安である。長生きの時代になったので、病院とスーパーに行く移動手段が非常に大事になる。それを解決できるのであればよいと思っている。町内の皆さんからいろいろな意見を聞きながら、変えていければと思っている。正善寺線バス利用促進協議会としては、前向きな姿勢でこれからもますます頑張っていきたい。

【傍聴人②（上正善寺町内会長）】

市からは、まず正善寺地区の3町内会、次に正善寺線バス利用促進協議会、そして各町内会に、細かい資料を使って説明してもらった。市が正善寺地区の町内全戸を対象に聞き取り調査をしたところ、そんなに困っている人はいないとのことである。家族に若い人がいて、病院通いの時には車で連れていってもらおうという人が多いからではないかと思う。バスに人が乗らないのに、年間400万円の税金が使われている。そこで市から、令和4年4月から9人乗りの乗合タクシーに変えるとの提案があった。路線バスでなく乗合タクシーになることは、過疎が進んでいるため仕方がないというのが私の考えである。乗合タクシーをどのような形態にするのかとい

うのは、まだこれからの話である。促進協議会としても、上正善寺町内会としても仕方がないとの結論に至った。乗合タクシーの形態をこれから検討することになるため、その時には皆さんから協力してもらいたい。

【傍聴人③（中正善寺町内会長）】

バスの利用促進について長年協議してきたが、今の見通しから考えると、乗合タクシーに落ち着くのだと思う。最初は、路線がなくなったら大変だという思いがあった。しかし、市は1人でも2人でも乗客がいれば、市街地に出るため手段として何らかの形で運行していきたいとの考えであり、乗合タクシーが提案された。今走っているバスで、誰も乗っていないのが何便もある。それをなくして、乗る人がいる時間に動かそうということで乗合タクシーになった。1人で乗った場合、市街地まで2,000円～3,000円掛かったのでは本当のタクシーになってしまうので、今のバス代の範囲で運行しようとしている。いくらになるのかは分からないが、それが基準になっていると思う。

地元の方は70代、80代になっても車の運転免許証を持って運転しており、バスに乗ることがなかなかないので、そんなに困ることはないというのが現実である。うちの町内でも、運転免許証を持っていない人は2人いるが、その方々は子どもに乗せてもらっており、子どもがいない時にはタクシーで病院まで行っているので、路線バスがなくなったらどうしようという差し迫ったものはない。しばらくは乗合タクシーでよいのではないかと考えている。

【傍聴人④（下正善寺町内会長）】

3人が大体のことを話したので、それ以外で思っていることをお話しする。

収入に対して費用が3倍も4倍も掛かっていて、国からの助成も減ってくるので、再編したいとの話が市からあった。この正善寺線は平均で約3人、多い時間帯で5～6人ぐらいが乗っている。乗客には小学生もいるが、7～8年後には子どもがいなくなる。そうすると定期的に乗る人がいなくなるため、60代～80代の人に乗ってくれるかどうか問題になる。先日の市の説明では、1便あたり平均1人の乗客がいれば存続するが、1人を切ると自腹でバスを調達しなければいけないとの話があった。そのため、今はよいが、これから10年ぐらい経つとバスが廃止になる

ような状態になると思う。そうならないためにはバスに乗ればよい、という状況である。

私も最終的に乗合タクシーになるのは仕方ないと思っているが、除雪は従来どおりやってくれるのかと思っている。乗合タクシーだと、従来の路線よりも小路に入って来てもらえるため利便性はあるが、そこまで除雪をしてくれるのか。数日後に除雪会議があるので、その時に聞いてみたい。

皆さんあまり切実感がないが、5～6年経つと相当切実感が出てくるのではないかな。

【傍聴人⑤（滝寺町内会長）】

滝寺は市街地に近いせいか、正善寺線のバスに乗ることがほとんどないので、バスがなくなると言っても、今は「ああ、そう」という状態である。ただ、滝寺から本町方面へ行くのに、たまたま車がない時にバスに乗る人は、うちの町内にもいる。いずれにしても、乗合タクシーをやってみたと訂正するところは訂正すると市から話が出ていたので、どのような運用になるか見ていこうと思う。

【齋藤委員】

飯は市街地に歩いて行ける距離にあるということで、バスの再編については正善寺地区の各町内の方々と比べると切実感は乏しいかと思う。しかし、市の調査結果を見るまで知らなかったが、朝に飯公民館前でバスに乗り昼頃に帰ってくる人が2～3人いるようであり、その人は困るだろう。結局、どのような場所でも移動手段がない人は不便になり、市街地から遠い人はなおさら大変である。自家用車があればそんなに不便を感じないかもしれないが、困っている人にとっては、バスの便数が減れば減るほど不便になる。かといって便数を増やせばお金が掛かる。これは全国的な問題だが、路線バスは市、県、国の補助をもらいながら使われている。そのうち、国の補助の一部が今年で終わることから、今回の上越市全体の公共交通計画の見直しの中で、正善寺線も含めたバス路線全てで見直しがされているのだろう。

平成の初頭から使われているバスは傷んで部品交換もままならないとのことから、今年の夏頃から14人乗りくらいの小型バスに切り替わった。冬場はタイヤチェーンを巻かなくても少々の悪路は行けるので利便性はよいが、車両を小さくして

も人が乗らなければ意味がない。地元としても、何とかバス路線を維持していくために乗車率を上げる取組をずっとやってきた。ここ数年は、金谷北地区農村元気会の集落活性化の事業の中でイベントをするなど努力はしてきた。日常生活での利用が一番大事であり、イベントだけではなかなか収入アップには繋がらない。乗合タクシーへの変更も時代の流れで、このような形もあると思っている。これも駄目だとなると廃止になるかもしれない。

どのように乗合タクシーをやっていくのかは、まだよく分からない。疑問の方が多いが、市の担当者の話では、例えばスーパーへも迂回して行くなど、路線にこだわらずに要望のあるところに寄れる。また、路線から離れていてバスを使えなかった方のところに迎えに行けることも、乗合タクシーの大きな可能性の1つだと感じている。2～3年後あたりには乗合タクシーに変わると思われる。しばらくの間は実証実験のような形で、年数を掛けながらさらに使いやすくしていくのだろう。乗合タクシーに乗ってもらうためにはどうするのか、数年かけて市で検討していくという話を聞いた。そうであれば、乗合タクシーへの転換も致し方ない。乗合タクシーでよかったとなるよう、私たちも含めて今から考えていかなければいけない。

【高宮会長】

傍聴人に対して質問がある委員に発言を求める。

【永野委員】

齋藤委員から実証実験の話があったが、現在しているのか。

【齋藤委員】

まだしていない。

【永野委員】

数日前に上越総合病院で斐太線経由の7人乗りのバスを見かけた。実証実験か何かを始めたのかと思っていたが、小型のバスに変わったということなのか。

【齋藤委員】

そうだと思う。

【川住副会長】

バスから乗合タクシーに変えた場合、金額的にどのくらいの差があるのか。今は

400万円ほど助成金をもらっているとのことだが、乗合タクシーにしたならそれが半分になるのか。

【齋藤委員】

今までどおりである。

【川住副会長】

ただ車が小さくなるという感じなのか。

それと安全面。バスの場合、自動的に扉が開くとか、乗り降りが楽だとかいろいろとある。お年寄りの方が中心に乗ることが想定されるので、車の性能として安全性等が整っているのかどうか。それから利便性。乗合タクシーと現在のバスの時間や回数は全く同じになるのか。それらの面が乗合タクシーになってよくなるのか。お金もあまり安くない、安全面も難しい、回数も減るということになれば、ますます利用者が減ってしまうのではないか。その辺はどうなのか。これから運転免許証返納でお客さんが増えるのか。それともだんだん人口が減ってますます利用者が減ってしまうのか。先を見越して乗合タクシーという話が出てきていると思うが、安全性や利便性に問題があるような気がする。

【傍聴人②】

市からの説明では、乗合タクシーにするというだけで詳細な話は何もない。令和4年度から1年間運行してみて、いろいろな意見を聞きながらよい方向に変えていくという説明だけである。

【川住副会長】

では金額などは分からないのか。

【傍聴人②】

まだ提示されていない。

【傍聴人①】

ただ、他の地域の事例を見ると、意外と安いという印象を持った。例えば、妙高市で今運行しているものは価格が安いとの説明が市からあり、バスと比べて遜色ないのではないかと感じた。ただ、隣同士が近すぎて隙間がないというのは、小ぢんまりとしていいのか、または嫌だという人もいるのか。それはいろいろな人の考え

が出てくると思う。年寄りが乗りやすいのかというのは何とも言えない。例えば段差がどの程度あって、乗り降りはよいのか、降りづらいのか。私達も乗っていないので、一度乗ってみたいといけないと感じている。

【傍聴人③】

料金体系だが、バスだと1区間いくらだが、現在中郷区で走っているのは300円か400円の決まった金額であり、それと同じようにすると思う。それから車両についても入口に段差をつけて、ドアも自動で開き、必ず降りた人が安全なところに行ってから発進しているそうだ。タクシーなので、この時間に来てくださいと電話をかけて運行するので、無駄な走りがなくなる。時間はある程度決まってくると思うが、その時間に合わせて何人乗るか。なので、前日にお客さんの電話が来なければ走らない。今は誰も乗っていない時間もお金が掛かるが、走らないことでお金が掛からない。市では、市の負担を今の半分ぐらいにしたいという目標を持っているようである。市内のタクシー事業者は何社かあるが、どこにやってもらうかによって単価が決まってくると思う。他にもいろいろな問題があると思うが、他の例を見ながら決まっていくのだと思う。

【齋藤委員】

10月23日の地域協議会での市の説明では、斐太線、青田線についても同じような状況であり、1つの考え方として、新井方面と分断し斐太線と青田線を統合して環状線みたいにするという案がある。吉村委員に聞きたいが、現在バスはどこを通っているのか。バイパスではなく旧道の方か。

【吉村委員】

そのとおり。

【齋藤委員】

それが斐太線。それが新井方面に行かなくなる。

【吉村委員】

そうしてはどうかという案である。

【齋藤委員】

案であり、まだ決まっていない。

そのような形で利便性と乗車率を上げていかないと、市の援助も続けられなくなる。斐太線と青田線は、乗合タクシーはまだ考えていないのか。

【吉村委員】

現在検討している最中である。乗合タクシーにするとも、小型バスにするとも、現状のバスにするとも決まっていない。

【齋藤委員】

正善寺線は乗合タクシーにならざるを得ない状況である。

現在も小型バスになっているが、静かである。前はやかましくて、エンジンもマフラーが破けたような音がして煙を吐いていたが、小型バスは静かで、気付いたら通り過ぎている。身近な感じの車で悪くはないと思っている。事業者も含めて、どうしたら乗ってもらえるのかを地元の人達の要望を聞きながら一緒に考えている。我々自身も、少しでも使いやすいように、そして乗ってもらいやすいようにすることを考えていかなければいけない。今までどおり、しっかりと取り組んでいく必要がある。

【吉村委員】

現状は1日何往復走っているのか。それから、小学生は上正善寺の子も全て飯小学校へ通っていると思うが、スクールバスが走っていないとなると、保護者が送り迎えをしているのか。

【傍聴人②】

今はバスに乗っている。

【吉村委員】

時間帯にもよると思うが、現状では利用客はいるということか。

【傍聴人②】

1便あたり約3人いる。その半分が小学生、半分は一般の人。

【吉村委員】

正善寺地区は城北中学校区だと思うが、中学生のバス利用者はいるのか。

【高橋委員】

自転車通学である。

【吉村委員】

冬期間は。

【傍聴人②】

親が車で送迎する。

【傍聴人③】

たまにはバスに乗ると思う。

【吉村委員】

私の地元町内では、独居の人はバスを利用している。独居の人はいないのか。

【傍聴人③】

独居の人はいるが、車に乗っている。

【傍聴人②】

上正善寺にも独居の方がいる。病院へ行くのにバスを使っている。

【吉村委員】

今後は独居の方が増える。市が行った聞き取り調査の結果を見ると、地域の意向としては「ないならないでよい。」という印象を受けた。地域の皆さんは切実感を持っていないのか。

【傍聴人③】

皆さんの負担あつての路線なので、自分のためにバスが動いてもらうのは申し訳ないという感じである。

【傍聴人①】

ただ、子ども達が乗らなくなった時もバスを維持していくために、なるべく乗ってもらうようにすることも1つの方法。1便に1人以上乗らなくなってしまうと廃止になるので、子どもが乗っているうちは運行される。

【高宮会長】

私も正善寺線バス利用促進協議会に参加している。

城北中学校については、今のバスの運行時間だと正善寺地区の生徒は部活ができない。そうすると、どうしても保護者が迎えに行くか自転車で通学することになる。その辺をどうするかという問題もある。

【土屋委員】

中学生の冬期の送迎は両親が多いのか、それとも祖父母が多いのか。例えば、祖父母が運転できなくなると送迎ができなくなる。また、高校生はどのような状況なのか。私の家の前を関根学園高校のスクールバスが走っているが、結構乗っている。高校生はバイクの運転ができるので同じ状況ではないと思うが、その辺はどうか。

【傍聴人②】

上正善寺は、現状では祖父母が送迎しているが、都合がつけば両親が送迎している。

【傍聴人③】

来年春に1年生になる子が正善寺に2人いるので、6年間は確実にバスが維持されると市の担当者が言っていた。

【齋藤委員】

11月23日の読売新聞の記事に山古志地域の事例が載っていた。山古志は中越地震後の2007年に路線バスが廃止され、それからはNPO法人中越防災フロンティアがコミュニティバスを運行していたが、時間やルートが限定されるため住民の間では移動が不便だという声があった。そこで、東京都のAzit（アジット）という会社が11月20日から12月20日まで実証実験をしている。ドライバーは70歳未満の研修を受けた住民が登録されていて、利用者がスマートフォンのアプリで出発地、目的地、人数を打ち込むと、出動可能な住民が送迎を担当する。現在、ドライバーは4人。利用した後、ガソリン代の実費、アプリの手数料、任意の謝礼をクレジットカードで支払う。運行は午前8時から午後5時まで。利用範囲は地域内限定で、例えば山古志から長岡駅まで行くのはできないかもしれない。高齢者がスマートフォンを使えるのかどうかという課題もあり、利用者の意見を聞いて導入を検討したいとの話である。

客を有償で運ぶ場合、道路運送法に基づく許可や登録が必要である。ところが任意の謝礼とガソリン代などの実費のみでサービスを提供する場合は、許可や登録はいらぬというやりやすい部分がある。共助の移動手段として、こういった相乗りタクシーが出てきている。

【高宮会長】

- ・次回会議では、今ほど出された意見をもとに地域協議会としてどのようなことができるかを協議することを諮り、委員全員の了承を得る

—次第4 地元の方との意見交換—

地域の困りごと等について、委員と傍聴人による意見交換を実施

(主な意見)

- ・イノシシが道路脇の土手を掘るため、側溝が塞がって水があふれて、道が壊れる可能性がある。市の道路課にも対策をお願いしている。
- ・市道や県道脇の草が伸びて道路にはみ出ることがある。本来は土地の所有者が刈るべきなのだろうが、お金や労力がかかるため、誰が、いつ、どのように刈ったらよいか困っている。
- ・消防団員のなり手が不足している。

—次第5 報告（1）地域協議会 会長会議について—

【高宮会長】

次第5 報告（1）「地域協議会 会長会議について」に入る。

1 1月6日に地域協議会 会長会議が開かれ、私が出席してきた。会議の概要について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

まず、4つの連絡事項について要点を絞って報告する。

①令和2年度地域協議会委員の改選について

- ・現委員の任期は令和2年4月28日まで。
- ・次期委員の任期が令和2年4月29日から令和6年4月28日までの4年間、金谷区の次期委員の定数は現在と同じ人数。
- ・2月上旬に公募告示、3月上旬から下旬に公募、4月26日に応募が定数を超え

た場合の選任投票を予定。

- ・例年開催している活動報告会は2月中旬から3月上旬までの間での実施を各協議会で検討するようお願いがあった。

②令和2年度地域活動支援事業の概要について

- ・概要は今年度と同じ予定。
- ・昨年度行った見直しの結果を参考にしながら、各地域協議会で来年度のルールを検討してほしいとのこと。

③町内会長宛文書の配布見直しに係る地域協議会だよりの取り扱いについて

- ・来年度から町内会長宛の事務文書の配布回数を月2回から月1回にすることで、各地区町内会長協議会と協議している。その中で、特に全戸配布の負担が大きいことから、地域協議会だより、社協だより、各種パンフレットを班回覧にしてほしいとの要望が多かったため、市の共生まちづくり課から、来年度地域協議会だよりを全戸配布から班回覧に変更してほしいとのお願いがあった。
- ・この件を各地域協議会で協議し、今までどおり全戸配布を望む場合は、地元の町内会長協議会と協議してもらいたいとの説明があった。
- ・この件については改めて地域協議会の議題として諮る予定である。

④地域協議会の見直しについて

- ・地域協議会の見直しの検討に向けて、市では現在の委員に対してアンケートを実施する予定。
- ・アンケートの結果を参考に地域協議会の見直しについて検討し、令和6年度の改選から反映する予定。

また、高田区地域協議会に出された旧師団長官舎の諮問の関係で、諮問前に広報上越で事業者を募集した件について自治・地域振興課から、連携が不十分であったことを高田区地域協議会にお詫びしたとの報告があった。今後、諮問のタイミングを逸することないように、改めて庁内で連絡を共有するとの説明があった。

その他に、28区の会長が2班に分かれて意見交換をした。

【高宮会長】

活動報告会については、正副会長で相談した結果、令和2年2月26日水曜日午

後6時30分から福祉交流プラザで開催するのがよいとなった。また、来年度の地域活動支援事業のルール等の検討と、地域協議会だよりを班回覧にするかどうかは、次回以降の会議で協議したい。

- ・このとおりとしてよいかを諮り、委員全員の了承を得る

—次第6 事務連絡—

【高宮会長】

次第6「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・今後の日程

第8回地域協議会：12月23日（月）午後6時から 福祉交流プラザ

- ・配布物

事務事業評価の結果について

中山間地域「棚田米販売戦略講演会」について（ご案内）

地域教育往来55号

【高宮会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし

【村田副会長】

- ・傍聴人へお礼のあいさつ

【高宮会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。